

令和4年度 長久手市総合教育会議 次第

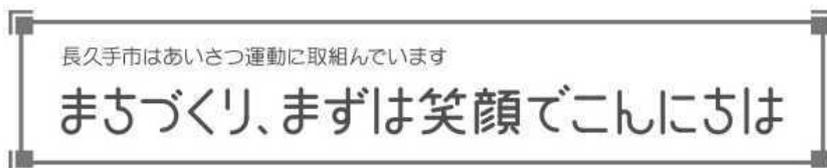
日時 令和5年3月22日（水）
午前10時から
場所 長久手市役所北庁舎2階
第5会議室

1 あいさつ

2 議題「地域で育ち合う共生の教育に向けたアクションとは」

- (1) 総合教育会議の趣旨説明
- (2) 本市の取組状況の紹介（資料1、2）
- (3) 職員研修会の実施報告（資料3、4）
- (4) 意見交換

3 その他



長久手市教育大綱

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、市長が教育委員会との協議・調整の場である総合教育会議を設置し、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱（以下「教育大綱」という。）を定めることとなりました。

本市は当分の間、人口が増加すると予測しているものの、その後は超高齢、人口減少社会が到来します。この新しい時代に対応するには、多様な価値観を認め合い、誰もが幸せに感じる社会を築いていけるよう、まちづくりの当事者となる人材を育てていく必要があることから、教育大綱を定めます。

教育理念

人間力を育み いつまでも健やかで夢と生きがいを持ち 成長できる人づくり
～自然共生・地域共存・多様性尊重～

教育方針

現代社会は、物質的な豊かさや快適さを追い求めてきました。その過程において、地域や家庭の絆、つながりが希薄化し、いじめや引きこもり、虐待など様々な社会のひずみは、さらに深刻化してきました。私たちは今、これまでの価値観を見直す時期に来ています。

そこで、人が人らしくあるために不可欠な次の3つの方針を、教育のあり方を考える上での根本に据えて、人づくりに取り組んでいきます。

- 1 自然の大切さ、命の尊さを学び、自然と共生する
- 2 地域で家庭や学校を支え、関わり合いながら、向上心をもって、ともに成長する
- 3 多様な人々の存在や価値観を認め合い、まざって暮らす

教育理念に掲げる人づくりについて

◆ 人として大切なことを備えた人格の形成

家族や友人、職場、地域などとの関係において、「あいさつをすること」「人の話を聞くこと」「ありがとうと感謝の気持ちを伝えること」「思いやりの気持ちを持つこと」が人として大切なことです。

人が社会の一員として自立して成長していくには、公共心を持って主体的思考のできる人材を育成することが必要です。

◆ 健やかさの形成・増進・保持

健康は、人が自分らしく生きていく上での土台となるものであり、様々な活動を行い、能力を発揮するために必要不可欠なものです。成長・発達過程に健全な心身を形成することはもとより大切ですが、のみならず、生涯を通じての心身の健康づくりを進めます。

◆ 役割・居場所のある生きがいつづくりの推進

人が幸せに暮らすためには、「人に愛されること」「人に褒められること」「人の役にたつこと」「人から必要とされること」が必要です。誰もが排除されることなく存在を認められ、夢や生きがいを持って自己実現を図ることができるような教育を進めます。

◆ 生涯を通じて、成長できる環境の醸成

人は、環境さえ整えば、いくつになっても、学び、成長することができます。たとえうまくいかなかった場合でも、いつでも、何度でもやり直すチャンスが保証されれば、きっといつかは成就する、そのような可能性に満ちあふれた教育環境の醸成を進めます。

3つの教育方針について

1 自然の大切さ、命の尊さを学び、自然と共生する

人は自然の一環であり、自然から様々な恵みを享受して生存するとともに、自然から様々な叡智を得て、社会の営みを築いてきました。

しかし、今、自然との触れ合いが減少し、自然に反した生活局面も多くなってきており、欧米では心身に支障をきたす“自然欠乏症候群”を危惧する動きもあります。自然の大切さ、命の尊さを学び、自然との共生を図ることが必要です。

2 地域で家庭や学校を支え、関わり合いながら、向上心をもって、ともに成長する

人は他者の支えなしには生きられない社会的な存在です。血縁、地縁、知縁の3つの絆がある中で、都市化や情報化の進展に伴い、居心地の良い“知縁”が重視される一方で、関係づくりが煩わしい“地縁”の希薄化・弱体化が進んできています。家庭も核家族化、少子化が進み、機能が低下しています。

しかし、人の暮らしは生活基盤となる地域を離れては成り立たず、直接的な支えが必要なときには、遠く離れた知縁・血縁では支えになりません。行政サービスでカバーできる範囲にも限界があり、地域の絆が不可欠です。学校も同様です。安心安全で楽しく充実した時を過ごせる住みよい地域は、そこに暮らす住民どうしで形成していく必要があります。

また、地域に暮らしている多世代が互いに交流することで、核家族化、少子化が進んだ家庭では担うことができない、先人が培ってきた知恵、風習、文化の伝承だけでなく、生命の誕生や人生の最期を見守ることや、互いを敬う心、愛おしく思う心を育みます。

人が学び、育つ環境は、こうした地域での暮らしの中にあり、地域との共存は、教育面でも家庭や学校では担えない重要な機能を果たします。

3 多様な人々の存在や価値観を認め合い、まざって暮らす

一人ひとりが大切にされる社会は、自分と違う他者の存在を認めあうことで成り立ちます。また、多様な人が交わり、多様な力が組み合わさることで、補完・支え合いの関係や新たな発見、価値の創造が可能になります。

また、画一的な価値観にとらわれない視野の広いものの見方が、学校にも地域にも家庭にも存在すれば、すべての人は、自ずと相手を寛大に受け入れ、また、自分が受け入れられたことにより、必要とされていることを実感することができます。

共生

自然共生

みんなで作るまち条例

まちをみんなで作る文化を

ながくて未来図
(第6次総合計画)

「共生のまち」を目指す

教育大綱

自然共生

地域共存

多様性尊重

を大切にできる

人づくり

循環型社会

ゼロカーボン

食と農

530運動

自清掃美化活動

命の学習

自然とのふれあい

里山

湿地

まざる

マイノリティ

学び合い

人づくり

他者理解

地域学校協働活動

つながりづくり

多文化共生

子どもと大人のつながり

居場所づくり

役割づくり

自分らしく

子どもを地域で見守る

たすけあい

文化芸術

図書館

地域共存

多様性尊重

「共生の教育」に資する各課の取組調査票

資料 2

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて回してください。	共生のポイント
1	地域共生推進課	きた★がーる	北小校区共生ステーションを舞台に、志のある人たち同士が刺激しあい、地域の活性化と問題解決を図ることを目的とし、若手女性を中心にざっくばらんに話をするための場（年齢性別問わず）。 コロナ禍において、「今、安心安全にできること」を意識し、子どもと大人のつながりを維持するためのイベント「お月見どろぼう」を開催。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	参加者が目的意識を持って、地域のつながりづくりや活性化のために継続的に集まり、話し合いを重ねる中で新たな事業の実施まで発展することにより、当事者間の自治意識もより高まる機会となっている。
2	地域共生推進課	北ステお助け隊	北小校区共生ステーションの混雑時や職員だけでは施設管理対応が困難な際に、地域ボランティアが環境整備、受付業務補助、来館者の対応などの支援を行う。 また、北小校区で誰かのために何かやりたいという人の支援にも携わる。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	地域の居場所として、様々な人が集まる地域共生ステーションにおいて、住民ボランティアが来館者の話を聞くなどの関わり合いが生まれることで、互いの価値観が共有され、新たな学びのきっかけとなる。
3	地域共生推進課	参加支援事業「N-ジョイ」	社会的なつながりを持たずにいる、ひきこもりがちな市民及びその家族等が気軽に相談できる窓口と居場所を福祉の家内に開設し、定期開放している。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	社会的なつながりが持てずにいる人、新しい交流を求めている人など様々な価値観を持った人が気軽に集まり、スタッフとの相談や交流イベントを通して、それぞれの価値観を認め合える新たな居場所が生まれる。
4	地域共生推進課	支え合いマップづくり	地域の困りごとを地域の中で共有し、地域の中でできることを話し合う場を月1回実施している。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	地域の課題を地域の中でできるよう市民間で話し合う事で、地域の中でつながりや役割、居場所の創出につながる。
5	地域共生推進課	北ステ活動団体交流会	北小校区を中心に活動している団体同士をつなげ、お互いの活動の幅を広げ、北小校区内での課題を解決できるよう、交流のきっかけづくりを行う。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	北小校区共生ステーションの利用方法を活動団体同士で一緒に考え、交流会を協働して実施することで、団体のつながりを創出する。
6	地域共生推進課	まざって長久手フェスタ	「みんなが知りあい、まざりあい、つながりあう楽しさ」を体感できるフェスタを開催。 運営の段階から様々な方に関わってもらい、運営者同士、運営者と参加者、参加者同士もまざること意識している。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	イベント当日のみの関わり合いだけでなく、まざフェスを通して知り合った人同士で、終わった後も継続して関わり合いが持てるよう、日頃の活動へもつなげていけるよう意識している。

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて☑してください。	共生のポイント
7	地域共生推進課	まちの保健室	コミュニティの希薄化、コロナによる影響により孤立・孤独に陥りやすくなっているため、身近な地域で気軽に話ができる場をつくることを目的に、保健師・看護師・栄養士等の専門職等が、人が多く集まる場所へ出向き、健康相談等を行う事業。 R4年度は、事業周知と子育て世帯の抱える課題等を把握するため、ハイハイレースと育児あるあるトークを行った。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	単に相談することを目的にせず、そこで人に出会う、出会った人を気にかける、悩みを聞く、共感するといった「人をおもいやる気持ち」の醸成を目指している
8	地域共生推進課	たすけあいカー事業	市街地から離れた場所にある岩作三ヶ峯内の「長久手ニュータウン」の移動困難者を主対象に、社会福祉協議会と有志のボランティアドライバーが連携し、毎週金曜日に医療機関などを経由する定期便を運行している。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	移動困難者の外出支援だけでなく、利用者とボランティアドライバーの移動時の交流が図られ、双方にとって地域コミュニティを形成するための取組となっている。 また、運行の時間帯やコースをボランティアドライバーと利用車が話し合いを重ねて設定することで、市民が主体的に地域課題の解決に取り組む機会となっている。
9	地域共生推進課	小型バイオ装置の設置	南中学校に小型バイオ装置（メタンくん）を置き、家庭科授業内で未利用資源からエネルギー（バイオガスと液体肥料）を作り出し、循環型社会について体験し考える。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	生徒たちがより身近に循環型社会について考える機会を得るため、校内に装置を設置した。外部企業（アマタホールディングス）との連携として、装置の提供と設置、プレゼンテーションへの参加を行った。問題を地域や社会と結びつけることで、課題を現実的に捉える機会とした。
10	秘書課	障がいをお持ちの高齢者による秘書業務	来客時のお茶出しや同席など秘書業務の一部を職員とともに実施している。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	高齢者が役割と居場所を持ち、生き生きと暮らすことができる環境を整えている。また、職員などの会話とおしてお互いを理解し合えるようにしている。
11	行政課	平和体験学習	市内中学生が戦争の悲惨さや平和の意義について考える機会を得ることを目的として体験学習事業を実施。令和4年度は命のビザでユダヤ人の命を救った外交官「杉原千畝」について学んだ。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	第二次世界大戦中に人種に関係なく、命を救った杉原千畝について学ぶことで、自分と違う他者の存在を認め、命の大切さを学ぶ。
12	行政課	原爆写真パネル展及び語り部による戦争を語り継ぐ集い	文化の家で戦争について学ぶため原爆写真パネル展及び戦争を語る集いを実施した。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	家庭で学ぶことが難しい戦争体験を実際に学ぶことにより、命の大切さを学ぶ。

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて☑してください。	共生のポイント
13	たつせがある課	多文化共生社会事業	本市の外国人市民数増加に伴い、「日本人と外国人がともに理解しあい、地域の一員として活躍するまち長久手」を基本理念とし、外国人支援や多文化理解を促進した取組を実施。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	外国人支援に加え、外国人の文化的背景の理解促進や、外国人が企画及び運営などに関わり、活躍する場作りも行っている。
14	たつせがある課	地域共生ステーション管理事業	地域の活動拠点となる地域共生ステーションを整備し、地域の人たちのつながりの場を提供している。活動団体による高齢者向けの健康体操等の事業の実施、また活動団体同士のつながりづくりの事業を実施し、団体同士のつながりや多世代交流のきっかけになっている。また、活動団体やまちづくり協議会及び社会福祉協議会と協働して、余った食材のお裾分けや中学校の制服のリユースなど実施して、助けが必要な人とつながるきっかけをつくっている。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	誰もが気軽に集まる場を提供することで、多世代に渡り地域住民同士がつながり、地域のことを地域で考え、地域のための様々な取組を進めることができる。
15	たつせがある課	男女共同参画推進事業	男性と女性が性別にとらわれず能力を発揮し、互いを尊重しつつ責任を分かち合えるまちづくりを進めて行くための取組を実施	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	男女共同参画基本計画に基づき、講座の実施や情報紙の作成等の啓発活動を実施することで、人々が自分らしく生きることできる取組を実施している。
16	たつせがある課	まちづくり協議会設立運営支援事業	小学校区単位で地域の課題を地域一体となって解決するため、自治会のほか、地域に根ざしたこども会やシニアクラブ、企業、NPO、各種活動団体などをネットワーク化した組織である「まちづくり協議会」の設立及び運営を支援する取組	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	市が洞小学校区まちづくり協議会では、地域の子ども達が「子ども110番の家」のことを知らないという防犯上の課題に対して、PTAと連携し、子ども110番の家を巡るウォークラリーイベントを実施し、地域で子育てに協力する取組を進めている。
17	環境課	湿地の保全活動	長久手市内にある湿地の保全を市民活動団体である「長久手湿地保全の会」と協働して、実施している。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	令和4年度は、市民向けの湿地散策の催しを開催し、自然の大切さを市民に周知した。
18	環境課	530運動（ごみゼロ運動）	集合場所から小学校周辺の各コースに分かれ、主要道路等の清掃美化活動を行う。小学校の選定は1箇所です。毎年変更する。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	市民一人一人の環境美化運動に対する意識の向上を図り、きれいなまちづくりを目指すことを目的とした、啓発を行った。
19	環境課	愛・Nクリーン	地域主催で、令和4年度は4地区で開催。自宅から指定場所（公園・小学校等）まで各自清掃美化活動を行う。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	市民一人一人の環境美化運動に対する意識の向上を図り、きれいなまちづくりを目指すことを目的とした、啓発を行った。

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて☑してください。	共生のポイント
20	環境課	環境学習会	東小学校において4年生を対象にビデオトープに関する講演会及びグループワークを実施した。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針1 <input type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	子ども達にビデオトープを通じて生態系の仕組みや生物多様性を保全する意義を学んだ。
21	生涯学習課	ながくて・学び・アイ講座の実施	企画・運営を公募の講師が行い、講師と受講生がそれぞれの立場で学び合う、市民主体の講座を開催する。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input type="checkbox"/> 教育方針2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針3	講座の開催を通じて、地域の人材育成や市民相互の交流、学習成果を地域に還元していく環境づくり等を支援している。
22	生涯学習課	スポーツ推進委員事業	市スポーツ行政の中心的役割として、ニュースポーツフェスティバルやニュースポーツ体験会等各種事業の企画運営を行っている。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	イベントでの地域とのかかわりなど、スポーツを通じた地域との関わりがある。
23	生涯学習課	校区体育委員事業	各小学校区の校区体育委員が土曜日の夜間に小学校体育館開放を行っている。また校区運動会を開催した。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	小学校体育館開放や校区運動会で、スポーツを通じた地域との関わりがある。
24	生涯学習課	チーム紹介	一般の人に紹介してもよいと回答したチームを、スポーツチームに入りたいと申出のあった人に紹介している。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	スポーツを通じた地域との関わり
25	生涯学習課	スポーツ教室	スポーツをするきっかけとして、各種スポーツ教室を開催している。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	スポーツ教室をきっかけにスポーツを続け地域のチームに入ったり、スポーツ教室の参加者でチームを作ったりして地域と関わっている。
26	生涯学習課	マラソン大会	令和4年度の新春ふれあいマラソン大会は、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	地域の方の出店や多くの方が集まるイベントで、マラソンを通じて地域と関わっている。
27	生涯学習課	愛知駅伝	令和5年1月14日開催の愛知駅伝大会に参加した。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	スポーツ推進委員やスポーツ協会も関わり、地域の方から応援もあり、駅伝を通じて地域と関わっている。
28	生涯学習課	スポーツ協会補助金	スポーツ表彰、市民大会、スポーツ教室の開催、加盟団体及びスポーツ少年団の活動等に対する補助金を交付している。	<input type="checkbox"/> 教育方針1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針2 <input type="checkbox"/> 教育方針3	各加盟団体において、スポーツ大会や教室などを行って地域住民の交流の場ともなっており、スポーツ少年団は地域の方と市内小中学生の関わり場の場となっている。

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて☑してください。	共生のポイント
29	生涯学習課	レクリエーション協会補助金	レクリエーションフェスティバル、チャレンジ教室、あそびの城の開催等に対する補助金を交付している。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	イベントでの地域の交流の場であったり、チャレンジ教室やあそびの城では地域の方と市内小学生の関わりの場となっている。
30	生涯学習課	インクルーシブアート展関連WS	市制10周年を記念し、このWSにて、健常者と障がい者が同じ空間でおりがみなどで「ありがとうの花」を作り、色紙サイズの和紙に貼り付ける。その後色紙サイズの額に入れ健常者の作品や障がい者の作品関係なく、文化の家展示室に掲示する。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	健常者と障がい者が同じ空間でアートを作成することで、自分とは違う人たちも生きているんだと自覚し、多様性や共生社会を意識することができる。
31	生涯学習課	自治会連携「お月見どろぼう」	子どもたちが近所のお宅を回り、お菓子等をもらい歩く長久手市の風物詩である「お月見どろぼう」があります。近隣自治会と連携し、文化の家館内で同事業を行い150組の子どもたちで賑わいました。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	自治会または個人でおこなう「お月見どろぼう」を広げた視点で、多くの家族が集い、家庭内融和と地域社会をつなぐことで地域の共存が進む。
32	生涯学習課	ふくしであーと	福祉施設に芸術家が出向き、双方で音楽に触れる「ふくしであーと」。コロナ禍で外部との面会が長く断絶していたことにより入居者の機能低下が懸念される中、バルコニーなど10カ所で演奏活動を行った。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	音楽を通じた交流。
33	福祉課	手話奉仕員養成講座	ノーマライゼーション社会の実現に向けて、聴覚障がい者等の日常生活上の初歩的なコミュニケーション支援を行う手話奉仕員の養成講座を開講。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	手話奉仕員を養成することにより、聴覚障がい者等の自立と社会参加の促進が図られることを目的としている。
34	福祉課	要約筆記奉仕員養成講座	ノーマライゼーション社会の実現に向けて、聴覚障がい者等の日常生活上の初歩的なコミュニケーション支援を行う要約筆記奉仕員の養成講座を開講。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	要約筆記奉仕員を養成することにより、聴覚障がい者等の自立と社会参加の促進が図られることを目的としている。
35	福祉課	ながくて地域スマイルポイント事業	市民活動等に参加した市民に対してポイントを付与し、貯まったポイントを商品券に交換できる。19の市民団体と50の市行事、38の福祉施設が対象活動として登録されている(R5.3.10現在)。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	元気な高齢者を始め、市民が健康で自分らしく暮らし続けられるよう、市民活動の推進、きっかけづくりとなる仕組みを構成し、地域社会への更なる参加と市民同士が支え合うことを促している。
36	長寿課	ワンコインサービス事業	地域の有償ボランティアが在宅の高齢者に対し、軽度な日常生活の支援を行う。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	有償ボランティアと高齢者で支え合うことで、安心して暮らし続けられるまちづくりを目指している。また、有償ボランティアにとっても、役割を与えられることで生きがいづくりに繋げている。

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて☑してください。	共生のポイント
37	長寿課	生活支援サポーター事業	生活支援サポーター（ボランティア）	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	ボランティアには、地域での役割を持ってもらうことにより、生きがいづくりに繋げることに加え、高齢者の継続的な見守り支援をすることで安心安全に暮らせる地域づくりを目指している。
38	健康推進課	命の学習講座	中学校から依頼を受け、保健師の講師派遣をしている。妊娠・出産の知識の普及を行い、人間としての愛や性について考える機会としている。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	生命の大切さ・自他ともに大切にすることを伝えていくこと、将来子どもたちが親になったときに順調な子育てができるようにつなげられることも目的としている。
39	子ども未来課 子ども家庭課	上郷複合施設内交流	上郷保育園、上郷児童館、長久手市児童発達支援センターの交流事業 児童館での、保育園年長による児発センター通所児童への歌のプレゼントや、センター通所児の保育園園庭利用、保育園・センターの児童館利用など	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	複合施設内の子どもたちによる、施設を超えたまぎって暮らすイベント。あわせて、職員たちも交流を行っている。
40	子ども未来課 子ども家庭課	上郷複合施設内交流	地域への交流の場として設置している、「地域の庭」及び「サロン室（かまど）」利用	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	地域の方の力を借りて、種まき、水やり、草取り、収穫、リース作り、いも蒸し、虫とり等を通じ、自然と関わり共生している。
41	みどりの推進課	平成こども塾体験学習事業	自然とのふれあい、体験を通じた環境教育、地域や人との交流、食体験等の機会を通じて学び、生きる力を育みます。年間約190回実施予定。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	自然とのふれあい、食と農、ものづくり、伝統文化などさまざまな分野の体験活動を通じて子どもたちの感性、生きる力、世代を超えたコミュニケーション能力を育みます。
42	教育総務課	長久手小学校区地域学校協働活動事業	地域のボランティア団体や自治組織等の地域住民による登下校の見守り、校内の除草作業、図書の読み聞かせ活動、また、大学生による夏季・冬季休業期間の宿題支援、学習支援	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	少子高齢化や地域のつながりが薄くなっているなか、学校だけではなく、地域全体で地域の特色を活かし、学校と地域住民が協働して子どもたちの成長を支えることとしている。
43	教育総務課	命の学習講座	市内中学校3年生を対象に「命の学習講座」を開き、大学教授やNPO法人などの専門家や外部講師が「生や性・命」についての授業を実施した。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	「性の多様性」当事者が実体験を語り、多様性尊重を学んだ。

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて☑してください。	共生のポイント
44	教育総務課	国際交流事業	西小学校、東小学校が国際交流事業を通して多様な人々の価値観を学んだ。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	自分と違う他者の存在を認めあうことをねらいとしている。
45	教育総務課	「わたしたちの長久手～地域の環境～」をテーマとした学習	北小学校4年生が、水の循環、水の使用状況、香流川の水質調査を実施し、水について学んだ。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	身近にある自然を様々な視点で見、自然環境について学んでいる。
46	教育総務課	P T Aと連携した教育活動	南小学校では、職員・P T Aが一丸となって、地域との交流活動やボランティア活動を推進している。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	「できることを、できるときに、できる範囲で」を合言葉に、無理なく持続可能な取組となっている。
47	教育総務課	E S D教育	西小学校では、地域の方や企業の協力により「郷土」や「環境」について学んだ。そのほかにも、ポッチャ体験や他国の人とオンラインで交流する国際交流事業を実施した。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	パラリンピック出場経験者を招いたり、他国の人と交流するなど、当事者と直接顔を合わせて「多様性尊重」について学んだ。
48	教育総務課	地域による登下校の見守り活動	東小学校児童の下校時に、地域の企業がボランティアで見守り活動をしている。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	地域が学校を支え、子どもたちの安全を見守ってくれている。
49	教育総務課	校内フリースクール	北中学校に集団生活に不安を感じ生徒のためのフリースクールを校内に開設した。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	好きな時間に登校し、時間割はなく、自分のペースで活動する。
50	教育総務課	カーボンニュートラル はじめの一歩 – 小中学校植樹事業 –	市内企業の協力を得て、みどりあふれる魅力あるまちづくりをめざして各学校で児童生徒が植樹をし、緑豊かな学び舎をつくれます。	<input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	市内全小中学校で、児童生徒の手により植樹をし、自然を大切にする気持ちを育む。
51	中央図書館	学校連携事業	中央図書館の学校連携司書を市内小中学校へ派遣し、本の読みかせやブックトークなどの学校の読書活動を支援する。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 2 <input type="checkbox"/> 教育方針 3	本を通して新しい知識や考え方を得て「生きる力」を育み成長できるよう意識している。

番号	課名等	取組名	取組概要	該当する教育方針 ※複数該当する場合は すべて☑してください。	共生のポイント
52	中央図書館	ボランティア活動	絵本の読みきかせや返本・書架整理、図書修理などのボランティアと協働で取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 教育方針 1 <input type="checkbox"/> 教育方針 2 <input checked="" type="checkbox"/> 教育方針 3	読みきかせを通して本への興味関心を持ってもらう。また図書館見学としてボランティア活動を子どもたちに見てもらうことで、図書館を利用するために様々な人が図書館運営に関わっていることを学ぶことができる。

「地域で育ち合う共生の教育に向けたアクション」に向けた職員研修会の概要

開催日時: 令和5年3月15日(水) 9:30~12:00

開催場所: 市役所西庁舎3階研修室

参加者: 28 課から教育や学びに関心のある1~4名

合計 46名(オブザーバー2名、事務局職員含む)

配布資料: 教育大綱、コミュニティワーク実践講座報告書(参考資料として)



～教育大綱は「学校教育」のことだけでない～

教育大綱は学校教育のことだけ言っているのではない。将来にわたって、自分の身体と脳を使ってどのように学んでいくのか市として考えましようということを行っている。

～教育によって主体性がなくなっている～

赤ちゃんは生まれた時から主体的で、主体的に生きない赤ちゃんはいない。教育を受けてだんだん主体的になることを止められていく。

行政と市民の関係でも、行政が全部やってしまっ市民が主体的になることを止めていないか。

～あいさつは、敵じゃないよ、お近づきになりたいという行動～

海外ではいろんな人種がいるためうまくコミュニケーションするには私は敵じゃないと示す必要がある。

まずは市役所の中で相手の目を見て、笑顔のあいさつをこころがけよう。

(わりばしを口にはさんで笑顔の筋トレをしました)



～安心してあいさつできる関係がどれくらいあるか～

長久手の中に、安心してあいさつできる関係がどのくらいあるか？

今の子ども達は、どのくらいの大人に出会っているだろうか？子ども

たちが多様な大人と出会う機会がなくなっている。

多様性の尊重は、まず自分の暮らしの周りから考えよう。

研修会の進め方としての特徴(事務局による抽出)

【参加者が主体的に関わる場をつくる】

- ・開始直前に会場レイアウトを机ありからなしに変え、参加者が協力して場をセッティングし、主体的な意識を醸成。
- ・聞くだけでなく、主体的にグループをつくったり、話し合ったりするワークを頻繁に取り入れた。

【フラットで自由な関係づくりを意識】

- ・最終的には事務局やオブザーバーも参加者の中に混じり、立場の隔てをなくすよう講師が導いた。
- ・参加者もオブザーバーになりたい人はそうして良いとの声かけもあった。

～どんな風に子どもを育てたいか～

自分の子どもだけ突出して幸せな状態なのが良いのか、コミュニティの子どもたち皆が幸せだから自分の子ども幸せになるのがいいのか、どちらのイメージを描くだろうか。教育大綱は後者。



～未来の子どもたちのために～

インディアンの言葉「7代先の子どものことを考えて今の行動をえらびなさい」。今日の話で1つでも2つでも残ったことがあれば、それが誰かに伝わって、少しずつ変わっていくといい。自分が生きている間に実現できるかは分からないが、500年先を考えて、長久手のために動いてもらいたい。

～赤ちゃんがどう発達するか考えてみてほしい～

脳や体の発達はどんな環境で育てたかで変わってくる
親だけじゃなくて親を取り囲む環境も



いろいろな人と関わって育つと、いろいろ選んでいいものを取り入れられる。親だけだと親の価値観がすべてになってしまう。

自然が大切。太陽の暖かさや風の心地よさを感じ、たくさんの刺激を受けながら発達していく。

自然の中で、自由に遊べる場所がなくなってきている

赤ちゃんは世界を理解したいから、教えなくても主体的に学ぶ。

～小さい単位から行動していこう～

今、年間500人以上の子どもたちが自殺している。うつやひきこもり、不登校も沢山いる。国で変えるのはもう難しい。市町村など小さい単位でなんとかしようとする人が集まって行動を起こしていきませんか。

～だれか1人が正解をもっているわけではない～

みんなで行っていくための技術(コミュニティワーク)が必要

できる人から、現状を知ってしまった人から動くしかない。

もやもやを持ち続け、今できることは何かをみんなで考えよう。

【現状を具体的に伝え、もやもやを生む】

・赤ちゃんや子どもの発達が崩されている
社会の現状を具体的に伝え、参加者の問題意識を喚起。

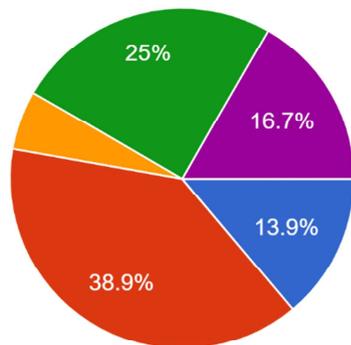
・誰かがすぐに解決できる問題ではないが、誰かが取り組みはじめないといけないという呼びかけ。

【みんなで考える場づくりを学ぶステップへ】

・「コミュニティワーク実践講座」を参考資料として配布し、立場を超えて多様な人がつながり、みんなで考えていく場をつくるためにはどうしたら良いかのきっかけが提示された。

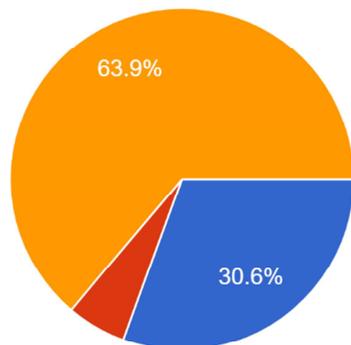
参加者事前アンケート【抜粋】（36人回答）

あなたは長久手市の教育大綱の内容を理解していますか？



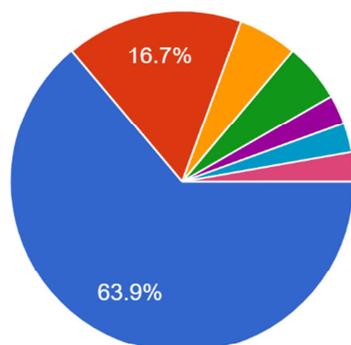
- よく理解している
- あまり理解していない
- 理解していない
- 読んだが内容をよく覚えていない
- 読んだことがない

あなたが今、担当している業務の中で実現するとういなと思っていることは教育大綱につながることでですか？



- はい
- いいえ
- わからない

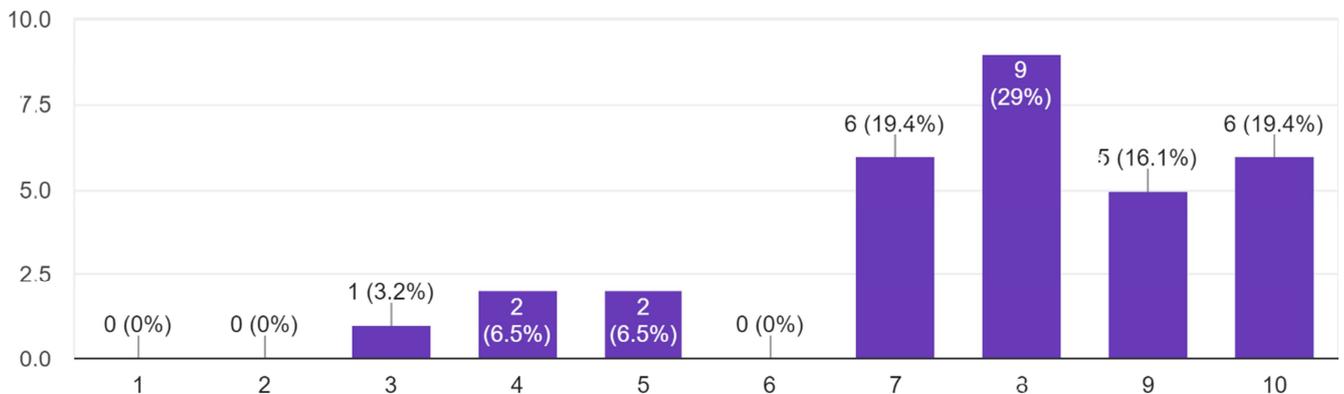
あなたは長久手の行政をより良くしていけると思いますか？



- はい
- いいえ
- わかりません
- わからない
- わからない。
- より良くしたいとは思いますが、行政ってどういう意味で使っていますか？人によって捉え方が違うので分からないと回答します。
- 行政だけでは難しいと思う。

参加者事後アンケート【抜粋】（31人回答）

参加の満足度は10段階評価で、どのくらいですか？



今日、学んだこと、感じたことは何でしたか？（一部を抜粋）

- ・学校の教室だけが教育の場ではなく、地域や自然も教育にとっては重要なことであること。
- ・教育大綱は、理想とする概念のようなぼんやりした位置づけでしたが、いまの日本、長久手の子どもたちにとって、道標となることが書かれているのだと感じました。
- ・教育もまちづくりの一つだと感じ、福祉も教育も、すべてまちづくり、共生など、同じような考え方であると思った。個人的には、こどもに、周りに合わせることも大事と教えていくことに迷うようになった。もっと自分の意見を言えて、人の意見を聞けるようになればいいなと思う。
- ・グループでは、「どういう子どもに育てたいか」という質問に対して、「自分で選択できる人間」「多様な人と交わることができる人間」という答えが多かった。じゃあ、子どもにそういう環境を与えるために、私たち大人はどう行動するのかと尋ねると、誰も答えを持ち合わせていない雰囲気、実はそこを一番考えることが必要なんじゃないかと感じた。
- ・今日のお話を聞いて「人生は学びの繰り返し」なんだな、と思いました。けれど、学べる環境が不十分だったり、大人たちの敷いたレールしか歩いてはいけないような社会がすぐそこにあることも学びました。また、グループワークで「地域」へのマイナスイメージを持っている人がいらっちゃって（自分もその一人ですが）、マイナスのイメージから失われたものをもう一度プラスのイメージで取り戻すことへの難しさを感じました。
- ・職員が弱者の気持ちを理解した接客や施策が立案できるようになるには、今日したような意見交換を市民と行い、生の声を聴き現状把握をする必要があると思うし、市民は要求するだけでなく、現実を知ったうえで市政に協力していく必要があると思う。

I. 事前アンケートの結果まとめ

5. 実現を望んでいること

<地域について (17安心な暮らし 22楽しい暮らし) >=地域共存

- ⑦地域とのつながり ④地域共存 ③多世代交流 ④見て見ぬ振りしない地域
 ⑨公園活用 ⑧保育園機能の多様化 ⑬教育施設の充実 ③地域に開かれた学校
 ⑩魅力の広報 ⑮移住者へのアピール ⑲市内移動の至便さ
 ⑱困りごとの自分ごと化 ①図書延滞の減少 ⑯さらなる大学連携

※ 斜字は地域共存。まさに教育大綱で実現しようとしていること。具体的に日常の中でこれをどう実現していくか。

⑳健やかな暮らし

- ②介護予防のモチベーション向上 ③生涯スポーツによる医療費削減 ⑩医療と介護の
 一体化 ⑩障害者雇用の推進 ⑥建物の維持修繕 ②カーボンニュートラル

※ この街で暮らすのは幸せだから健康でいたい、と住民が思う街の実現。

<業務について>

- ③ペーパーレス化 ④業務量の均等化 ⑤窓口業務の混雑緩和 ①委託調査物の削減
 ⑭業務マニュアルの作成 ⑨申請の簡易化 ⑲業務の整理 ③業務量削減
 ⑱困りごとのシェア ⑮横断的連携 ⑲失敗は成功の基という発想の共有

※ 実現したいと願っていることの多くは、教育大綱の中に包含されてもいる。

つまり、人が働くときに、やりがいがある形で仕事できて、自分の成長につながっているという感覚で仕事できているかということ（こんな仕事はやりたくない、多忙で個々の業務にしっかり取り組めないという状態では、人は成長できない）。

※ 業務の中に、実は不要なルーティン業務はないか。それを「止める」という判断ができる組織か。責任回避になっていないか。つまり業務の問題か、組織の問題か。

※ 業務改善ができていない自治体はどこにあるか。情報収集や実現へのアイデアは自分にあるか？職員数や給与の問題だけではなく、やりがいや協働感覚の問題はないか。

6. 学びたいこと

<自分が成長して、人とともにうまく暮らしていくために>

- ①コミュニケーションスキル ②メンタルケア ⑮傾聴 ⑲心穏やかに自信を保つこと
 ⑭コーチング ⑮時間の使い方 ⑨ウェルビーイング ③子どもとの接し方・子育て

<⑳市が目指す街の姿>

地域共存：⑨地域とのつながり・かかわり方 ⑩多世代のつながり

多様性尊重：⑤LGBTQ ⑥人権 ⑲混ざって暮らす ⑲ダイバーシティ ③多文化共生

②長久手の歴史 ②⑧この町に住んでよかったと思うのはどんなときか ③①個人と街のウェルビーイングの関係 ③⑩結果にコミットした生き方

<技術の獲得（業務&業務外）>

③③新しい資格取得 ④④鍼灸 ⑦⑦言語・語学 ⑧⑧消防設備 ②①保険分野 ②④資産運用
⑬⑬業務にかかわる法律や基準 ⑬⑬施設のリノベーション ⑬⑬庶務の大筋
⑪⑪部活動のあり方 ⑫⑫注目を集めるものを作る

※ 市民・職員が自分を成長させたいと願う想いをかなえるために、市ができることは何か、それは個人的なことなのか？業務に組み込めることは何か。知識や情報の交換はできないか。皆がそれぞれ成長していくことで、街や行政がよくなっていくのか？市民が学ぶことのできる場はあるか？

生涯学習の街として、そのような機会や時間をどう保障していくか。

→市民が学べるフォルケホイスコーレのようなシステムは作れるか？

大学（エクステンションセンター）との連携は可能か？

市内のあちこちで学んだ単位を集積していけるようなシステムはどうか。

7. 長久手の子どもたちを実現するといいなと思うこと

<一人ひとりがのびのび育つ街>

③③自由にのびのび遊べる場所 ④④ゆっくりやすめるように家庭に関わる大人を増やす
⑬⑬様々な体験 ②②おおらかでチャレンジできる子を育てる ②⑥活き活きと成長 ②⑦嫌なことがあっても乗り越える（レジリエンス）
⑨⑨個別支援 ②③特性に応じた教育

<安心して暮らせる街>

⑥⑥安心な暮らし ⑦⑦性犯罪撲滅 ⑤⑤人権教育 ⑬⑬安心安全な地域 ⑬⑬顔の見える関係性
⑬⑬挨拶 ③③安全に遊べる場所づくり ③③困っている人に目を向けて行動できる子ども
③④挨拶や会話ができる街 ⑬⑬多様性尊重 ②②費用軽減

<地域で育つ街>

⑧⑧地域とのつながり ②⑤地域で学校を支える ②⑤学校外の学びの場
①①利用しやすい公共施設 ⑬⑬教育施設の充実 ⑬⑬児童施設の増設

<誇りが持てる街>

⑪⑪自慢できる街づくり ③③長久手が好きな子ども ②⑨この先も住みたいと思う街づくり
②④古き良き伝統の継承

<参画したいと思う街>

⑫⑫クレームを言わない市民 ②①街づくりへの子どもの参画 ②⑧子どもの意見の反映 ⑩⑩やらされ感の減少・やりたいことの応援 ③⑩発信を尊重できる街

※ 見学させていただいた地域共生ステーション・まちづくり協議会（西区）や太陽の杜の活動は、この方向性で10年進んできているのではないのでしょうか。全校区にできるといいですね。

II 20230317 ワークショップ事後アンケートまとめ

一般社団法人ジェイス 武田信子

0. 研修の評価

武田の実施する研修としては、かなり低い結果。原因は何か？

①事前アンケートと研修の中身のずれ

→アンケート結果を基にして議論する時間が必要だったか？→このプリント作成。

②動員？ 自分の関心事とのずれ。オブザーバーの提案なしで、強制参加の感じがした？

③そもそも考え方が違う？ できれば確認したいけれど・・・。

1. キーワード

- ・私（講師）が言ったことが正しいとは限らない。
- ・教育大綱に学校教育という文言はない。
- ・市役所で勤めることも、生涯学習！？になるように。
- ・500年後を見て行動すること×4
- ・今の若い人たち、20代以下は「地域」を知らない。
- ・長久手の子どもたちは、親や先生以外の大人に地域で出会っているか？
- ・ウェルビーイング（社会的・精神的・身体的な健康）
- ・子どものウェルビーイングとコンテナベビー症候群
- ・地域の皆が育てれば、母は子どもを産むだけだから、また次に子どもを産みやすくなる。
- ・ハロウィン…家を訪ねる。互いを知っている安心なまち。みんなで子どもを育てるまち。
- ・赤ちゃんにとっての一番の自然は人間。
- ・大人が必要と思わない事柄は、赤ちゃんが体験できない時代
- ・今の出産時から育児の両親と赤ちゃんの生活環境が、昔と比べると赤ちゃんの発達に悪影響を与えている
- ・子どもは意見は言えるが社会を変えるだけの力はない。子どもの意見を聞いて社会を変えていくのが大人の責任
- ・抱っこひもの中の赤ちゃん（本当に心配。確かに子ども部にも市民課にもベビーベットがなく、だっこ紐で来るしかない状態を市役所も作り出している。ベビーベッドに寝させるタイミングだったらまだ言いやすい)
- ・誰でも生まれた当初は主体的だった。赤ちゃんの頃は、みんな主体性をもっている。
- ・生きる力は、共に生きる力。 ・自律。
- ・多様な価値観を認め合う/共生/
- ・海外から来た人と交流することではなくそばにいる人と対話するだけで多様性が学べる。
- ・Hello、挨拶しない日本人 目を見てあいさつ。
- ・やはり“Hello”。あいさつすること、あいさつできる関係になること。
- ・今まで何気なく受けてきた日本の教育

2. 学んだこと、感じたこと

- ・共生

- ・学校の教室だけが教育の場ではなく地域や自然も教育にとっては重要なことであること。
- ・子どもが育つ環境「発達の場」を行政と市民でつくる必要がある。
- ・教育もまちづくりの一つだと感じ、福祉も教育も、すべてまちづくり、共生など、同じような考え方であると思った。個人的には、こどもに、周りに合わせることも大事と教えていくことに迷うようになった。もっと自分の意見を言えて、人の意見を聞けるようになれたらいいなと思う。

※ 教育、と言うと、みんな学校教育って思わされてきたと思いますし、教え込むことが教育だって思ってきたと思うんですが、学びを支える、と考えると、違う教育の姿が見えてくると思います。

- ・グループでは、「どういう子どもに育てたいか」という質問に対して、「自分で選択できる人間」「多様な人と交わることができる人間」という答えが多かった。じゃあ、子どもにそういう環境を与えるために、私たち大人はどう行動するのかと尋ねると、誰も答えを持ち合わせていない雰囲気、実はそこを一番考えることが必要なんじゃないかと感じた。

※ これは次からの課題ですね。

- ・昔、「幸せのモノサシ」の時にとったアンケートで、子育てとか子どもについて聞いた質問の答えで、「子どもがいないからわからない」という答えが多くありました。「子ども＝自分の子どもだけ」という発想なんだと思います。地域で子育てを仕向けるためにも、質問の仕方 を工夫をする必要もあるのかと思った。

※ 子どもは社会の宝、という言葉が浮いていますよね。みんなで育てるといふ街を創ればと思います。一緒に暮らしていれば、遊んでいけば、自然にそうなるんですが。

- ・今日のお話を聞いて「人生は学びの繰り返し」なんだな、と思いました。けれど、学べる環境が不十分だったり、大人たちの敷いたレールしか歩いてはいけないような社会がすぐそこにあることも学びました。また、グループワークで「地域」へのマイナスイメージを持っている人がいらっしゃって（自分もその一人ですが）、マイナスのイメージから失われたものをもう一度プラスのイメージで取り戻すことへの難しさを感じました。

※ マイナスの体験をぜひ聞かせていただいて、どうすればその体験を予防できたのか考えて、学びたいです。地域やコミュニティのよい体験を長久手市で改めて持てるといいですね。

- ・他人の考え方を受け入れながら自分の考えを持つ。

※ そのために対話の機会と練習が必要ですよね。民主主義の基本です。

- ・主体的でない赤ん坊はいないという言葉にはっとさせられました。赤ん坊のころは差別意識や固定観念などは何もないのに、日本の義務教育を経ることで刷り込まれていってしまうという問題の大きさがわかりました。しかし、単に義務教育の在り方を変えればよいわけではなく、今の固定観念が刷り込まれきった大人たちに対して教育していくことが必要ではないかと思いました。また、多文化共生とは日本以外の人たちと関わりあうことと考えがちですが、子どもは市内の多様な大人たちと出会えていないという言葉が印象的でした。子

ども、大人、と分けて考えてしまうのではなく、だれもが対象となり、様々な世代が交流できる機会をもっと増やしていく必要性を感じました。

※ いろいろと気づいてくださってすばらしいです。その感性で回りを巻き込んでいってください。

・教育は学校だけでなく生きていく上で必要なものであり日々の暮らしを豊かにするもの。

※ ですよね！！一生かけて学んでいきましょう。

・離乳食を食べる乳児の写真

※ これから赤ちゃんを見ると、子どもを見ると、いつも「何を学んでいるか」意識してみてください。脳トレになります。

・取り巻く環境が身体の機能を変えるほどの影響(特に赤ちゃん)を持っていることに驚き、怖さを感じました。日々、職場と家、子どもは保育園と家の往復のみなので、この状態をなんとか変えていきたいと思いました。

※ まずはできるところから、ですよ。他の子どもたちも同じ。個人の努力ではなくて、市にできることはあるでしょうか。

・職員が弱者の気持ちを理解した接客や施策が立案できるようになるには、今日したような意見交換を市民と行い、生の声を聴き現状把握をする必要があると思うし、市民は要求するだけでなく、現実を知ったうえで市政に協力していく必要があると思う。

※ 市民も職員も一緒なんですよ。ただ、役割分担しているだけ。関われば自分事になります。

・大人も子どもも多様な価値観に触れる大切さ。

※ これがなかなか難しいです。自然に混ざれるのがかつての公立学校だったんですが。

・教育を視点に子育てを考えると、子供に良いこと、親の都合により、子供に無理をさせている事があるんだと気づくことができた。

※ 今は親が無理をしているので、子どもにも無理を強いてしまうんですよ。

・育てることのとらえ方が変わった。

※ どう変わったのでしょうか。聞かせてほしいなと思います。

・教育大綱は、理想とする概念のようなぼんやりした位置づけでしたが、いまの日本、長久手の子どもたちにとって、道標となることが書かれているのだと感じました。

※ 私も初めて読んだ時にびっくりしました。素晴らしい大綱ですから、活用してほしいです。

・感じたことは、変わるべきは大人なのか。大人が今から変われるのかということ。妻と話して理解してもらえるかなということ。

※ そう！！子どもをぐいぐい引っ張って帰る前に、自分が変わって後姿を見せる。説得力のある説明ができる自分になる！

・上記の悪影響に関して、自分に出来ることを考えていきたい。

※ そう思った時点で、もう何かが変わり始めているはずですよ。

・何でも便利になる世の中、子育ての環境も変わっている。

※ 便利になると、人間は退化するんですよ。

・子どもたちに変化が起きていることについて学んだ。

- ※ 大人も子どもも。ただ、影響をより強く受けるのが小さい子どもたちなのです。
- ・1970年代から時代の変化とともに、子どもの周辺環境も変わるなか、昔の良かった環境を取り戻すというより、新しい目線で考える必要があると感じました。
- ※ 今から元に戻っても、以前の悪いところに戻るだけですから、新しく作っていくしかないと思います。
- それは世界でもここでしかできないことなのだと思います。
- ・長久手市の教育大綱には、学校教育についてではなく、全年齢に向けて常に学んでいくことが書かれている。
- ※ 今日、みんなで読んだ甲斐がありました！
- ・できることから できるひとから 行動する
- ※ 自分から、しかないですね。最初に芋を洗ったサルになりましょう。
- ・多様性、あいさつの意義
- ※ その後、実践していますか〜？
- ・赤ちゃんと大人、その過程にあるものは何か、どう変えれば失わずに済むか、という問いを持ちました。わが子がわりと「出る杭」タイプの子で、このまま育ててほしいと思いつながら、謙虚を美德とする社会に溶け込めるのかと心配もしています。また、「女の子だから云々、女の子なのに云々」は、私自身に禁じていますが、学校に行けばそういう言葉が交わされるようです。わが子に限らずみんな「出る杭」でいてほしいので、やはり地域で全体で考えていかなければならないと感じました。
- ※ 北欧やカナダに行くと、出る杭、も過ごしやすいかと思います。女子校もいいと聞きますね。日本ではまだまだ難しいようですが、すくすく育ててほしいですね。長久手がそうなりますように。
- ・相手に敵でないことを示すために『あいさつ』すること。
- ※ ちょっとネガティブな感じもしますね(笑)。本心から笑顔で挨拶できる関係を多く作りたいですね。

3. これから取り組んでみたいこと

<あいさつ>

- ・やっぱりあいさつ。大人があいさつする姿を見れば、子どもはする。
- ・きちんと相手を見て挨拶をしようと思いました。
- ・あいさつを意識すること
- ・今まで以上にあいさつをする
- ・笑顔であいさつする
- ・自分のあいさつが形式的なものになっていたと反省しました。コミュニケーションの入り口のためのあいさつを、今日から実践しようと思いました。
- ・まずは、目をみてあいさつすることからはじめたいと思います。

<子ども>

- ・近所の子どもへの声かけ。
- ・地域の子どもと関わりを持ちたい。

- ・今、取り組んでいる子どもと遊ぶ活動を継続していきたいと思いました。
- ・地域コミュニティを通じて、子育て環境の大切さを考える、あるいは議論できる場をつくりたい。
- ・自然体験や農業体験を通じて、農家の方、地域の方などつながりながら、今、これからの子ども達に何か出来ることは無いかな。
- ・子どもが地域の大人に出会える場づくり。
- ・子どもに選ばせる。地域の人、子どもがまざるきっかけづくりや働きかけ
- ・大人が手をかけすぎない環境を作り、大らかな気持ちで子どもたちを見守ることができたらと思いました。
- ・自分の子どもにいろいろな経験をさせたい。

<共生>

- ・まずは自分の周りの人たちと関わりを持つ。
- ・様々な課題に対して市民から要求があるが、意見交換の場を開き、市の現状を知らせてうえでどうしたらいいか検討してもらい、自分事として実現可能な意見をもらう。

<将来を見据えた新たな価値観による仕事>

- ・日々の業務で「こうだったらよりよくなるだろうな」と思うことでも、前例踏襲で形式的にやっています。私のため、ではなく、いつか担当することになる誰かのために業務改善ができないか、意識をしてやれることからやっていきたいと思います。
- ・既成概念にとらわれない意識 ・自分にできることを探す ・ものの見方。
- ・今どうやり過ごすかを考えるのではなく、将来のことを見据えた考え方をし、行動に移したいと思いました。
- ・自分の過ごした時間で感じたことや触れてきたことが自分の中のベース(普通)であるが、昔の人のベースや、今の子供たちのベースも違い、自分の価値観だけで仕事を行うのではなく、他の価値観も受け入れて、自分の普通じゃないことも学んでいきたいと思いました。
- ・型にはまっていない無限大の考え方、行動、それを自分で考えて行動できる職員教育を進めてみたいと思いました。
- ・長寿課にいと、主体的に心身の健康維持に努めていらっしゃる方が多い一方、そうでない方も多くいらっしゃることに気づきます。一日中テレビを見て、調理の必要ないパン等を口にいれ、寝るだけ。当然下肢筋力や認知機能の低下が危惧されますが、ご本人は「何も困っていない」。無理やり引っ張り出せばよいというものではなく、自然と、主体的な学びにつながる仕組みを考えたいと思いました。今の思い付きは、おしゃべりな人を一方的に派遣することです。

※ 感想はその時限りになりがちです。具体的に行動に結びつけるにはどうしたらいいでしょうか。共生ステーションや太陽の杜に行ってみるのも刺激になるかなと思いました。

※ 特に思いつかない、と書かれた方が数名いらっしゃいました。段々と業務の中であれ?と思ってくださることがあるといいなと思います。

<ワークショップへのコメント>

・とても素晴らしい内容の研修でした。より多くの人に聞いてもらいたいと思いました。
できれば、予算編成や組織編成、人事異動の前にこのような研修を、係長以上全ての職員で受けると良い。・勉強になりました。・職員全員が受講できたらいいと思いました。

※ 受け止めてくださってありがとうございます。教育大綱の読み合わせなど、仲間内でできるようになっていただくといいと思います。

・グループディスカッションは3分程度だと、話が長くなってしまいがちな人がしゃべって終わってしまうので、もっと時間をとっていただけると、いろいろな人の意見交換ができてよいと思います。また、本来会計年度任用職員を含めた市役所職員全員が今回のようなワークショップを一回でも受けることが必要だと思いますので、もっとワークショップの回数を増やして受講者を増やしていただきたいと思いました。

※ そうなんですよ。私がいる時間内にお伝えすることを増やそうと思うと、どうしてもグループワークの時間が短くなってしまいます。ワークも慣れてくると短く話せるようになるのですが、今回は最初でしたし、徐々に日常的に話せる市役所コミュニティができると、わざわざワークの時間を取って、ではなくて、お昼休みに話せる感じになるかなあとと思います。

※ もしまた機会がありましたら、ぜひ。

・私は自分の考えや想いを言葉にして伝えることが苦手ですが、やはり言葉にして相手に伝えることで少しすっきりしたり、お互いに今回講演いただいたことに関して意見を言い合い、聞きあうことで、理解が深まったと思います。ありがとうございました。

※ 苦手を作ってきてしまった学校教育から脱却して、どんどん話すことが気持ちいい、というふうになっていくといいですね。安全な関係での繰り返しが必要です。

・コミュニティワーク学びたいです！！まずは先生からいただいた本を仲間と読むことから始めたいです。

※ ぜひ。1-3章までをお話するのに2-3時間かかりますが、その記録がお渡ししたA4の冊子にありますので、読んでみてください。その記録を使って勉強会ができると思います。

・コミュニケーションが苦手なので今日の半強制ワークは少し苦しかったです、終わってみると今日はなした職員とは、少し気軽に話せそうです。そんな感じで良いのでしょうか。

※ 最初にオブザーバー参加も可と言うのを忘れてしまい、強制的と感じさせてしまったことを心からお詫び申し上げます。結果的に少しでも話せる職員が増えてくれたら、とてもうれしいです。

・年度末の忙しいときでなくてもよかったのではないかな。

※ お忙しい中で参加して下さってどうもありがとうございました。いつも業務が大変ですよ。少しでも得るものがあったとしたらうれしいのですが。

III. 講演+WSの結果から

1. 日本の子どもたちが被虐待児の症状を呈しているということを知る。
(エネルギーを十分に発散できない。感情処理(興奮・豊かな情感)が未熟。無気力。大人の顔色をうかがい良い子を演じ、突然切れるパターン。睡眠・起床などの生活リズムが整えられない、など) →リストカットや自殺企図。不登校や引きこもり。
いじめや残忍な行為。単独行動。
なぜそうってしまったか。
ピラミッドの上に行くこと、勝ち残ることが大切という大人たちの価値観が継続的にシャワーのように降り注いで、逃げ場がない。
大人たちによる子どもたちへの「良かれとっての」強制の中に閉じ込められている。
子どもに対する大人目線の評価と結果としての委縮(自己肯定・自己効力感の喪失)
→ディスエンパワーメントされた市民の誕生
→その市民が子どもを育てている現在
→コミュニティワークによるエンパワメントが必要
- ※ 長久手市の市民と子どもたちはどうか？
※ 予防のためにこれからできることは何か？
2. 不足しているもの：自然共生・地域共存・多様性尊重・・・教育大綱にあるもの。
教育大綱の実現のために、教育大綱の理念の理解と共有+価値観の自己認識が必要。
←15日のWS実施。アンケート結果から参加者の8割以上に効果があったと思われる。
3. 市民主体の民主的な行政をどう作るか
公正な関係性(人権)の中での協働の実現<対話という方法を用いる>
市民同士の対話 市民と行政の対話 行政と行政の対話
対話の機会の保障と具体的な確保 スケジュールリングと場の確保まで行政が行う。
↓
4. 内容<市民&職員の学習>
 - ① シチズンシップ教育<民主主義とそれを実現する対話と基盤となる人権の思想>
 - ② 人の発達(育ち)と生涯学習の概念の学習
←赤ちゃん育てから学ぶのが一番。その代用として学習会の開催。
納税は市民 ⇔ 市職員は預かって市民のために使う
公僕(上下)というより、役割の移譲(対等な関係)を受けて業務を遂行。
しかし・・・市民の価値観が個人主義、新自由主義のままでは、
選挙をしても多数決でも全ての人のための市政は実現不可能。

5. 基盤となる人権研修<子どもの権利・学習の権利・意見表明の権利等>

→ せかいこどもの日(11月20日)に、市民と子どもたちが子どもの権利の勉強をする。講師になる人材の育成のための勉強会を実施。人権研修の時間を活用？
侵害する人とされる人、がいるわけではなく、一人の人の中に、侵害する自分とされる自分がある。ということ認識する。

6. 事前事後アンケートにある市職員の意識をどう今後生かしていけるか。

【武田からの提言】→対話をしながら、志向&思考&試行&施行していただければ幸いです。

《地域共生ステーション+プレーパーク+フォルケホイスコーレ》構想

(小学校区)共生ステーション:多世代交流 多様性尊重 すでに西校区ではかなり実現。

+

(小学校区)プレーパーク:自分の責任で自由に遊ぶ子どもたちを大人が眺める・見守る。

+

フォルケホイスコーレ:大人が学ぶ姿を子どもたちが見る。共に学ぶ。お互いに学び合う。

- ※ 共生ステーション:コミュニティスクールをまちづくり協議会との連携の中で作っていく。体験は、イベント的な「点」ではなく、線、面を意識した展開をしていく。子ども向けイベントは特に「点(サプリメント)」になりがち。子どもたちの日常生活の中に溶け込むような形を再考、再編成することが必要と思われる。
- ※ プレーパークとは?:デンマーク発祥。子どもたちが自分の責任で自由に遊び、学ぶ。自然共生、地域共存、多様性尊重が同時に実現可能な場。失われた場をとりあえず人工的に作る。共生ステーションの隣にセットで設置 or 各学校校庭に設置(常設は日本初)。乳児から100歳までが使える場。ただし、子ども(社会的弱者)優先の場にする。プレイワーカーあるいはベダゴの常駐が望ましい(参考:出張プレーパーク)
- ※ フォルケホイスコーレとは?:デンマーク発祥。自分の生き方を考え、自分に必要なことが学べる市民のための学びの場。本来は寄宿制だが、街中なので通い。自分の持っている体と心と脳を使って、それからの自分の人生を豊かに暮らしていくための学びの場。四大学連携を生かし、市民の生涯学習の場として設定。単位制。デ・アート、アートの町「長久手」ならではのプログラム、講師陣が可能ではないか。人権や民主主義、コミュニティワーク、語学、身体等について学ぶ。職員研修も可能。多彩・多才な人々(留学生、主婦、子どもなど)も講師になる。講師になったり受講生になったり。この指とまれ方式。ただし、とびとびの学びの切り売り(カルチャースクール)ではなく、トータルな人間形成、生涯学習に寄与するプログラム構成を意識する。長久手に住んでいる間に多様な分野に渡って、何単位取れるか?
- ※ 学び・研修の会場には、自然共生等を実感するため「太陽の杜」を活用してはどうか。